

本 堂 くりおみ



小関与四郎写真集

「クジラ解体」

75歳の小関さんは千葉県で生まれ育ち、九十九里浜の漁師など、変わりゆく地域の風景と人々を50年以上撮り続けている。

千葉県・和田浦港でのマッコウクジラの解体は、商業捕鯨が中止される2年前の1986年に撮影された。写真は、大包丁を手に準備する解剖係と、水揚げされたマッコウクジラ。緊張と静けさが画面を支配する。解体が始まると一転、慌ただしさが覆い尽くす。解剖係の勇ましさを賛美す

るのでも、残酷さを際立たせ糾弾するのでもない。感情の表出を抑える絶妙な距離感を保ち、生活風景を淡々と見つめている。和歌山県太地町などにも足を延ばし、捕鯨町の今も収めた。

捕鯨の是非を巡る議論はあるが、「『事実は事実』の記録として残し伝えたい」と小関さんは言う。その先には、人間は殺生して食べ、生きていく存在だという事実も突きつけている。(春風社、1万5000円) (睦)